

“はじまりの聖地、極楽橋。”  
「極楽橋駅」が、「乗換駅」から、  
「高野山参りのはじめに必ず訪れたい場所」へと生まれ変わります。  
～駅舎内の天井装飾や願掛羽など、2020年4月21日(火)オープン～

南海電鉄(社長:遠北光彦)では、中期経営計画「共創136計画」において「インバウンド旅客をはじめとする交流人口の拡大」を掲げ、高野山と高野山麓エリア(橋本～極楽橋駅)への来訪者層の拡大と回遊性向上を目的に各種取組みを推進しており、2019年11月には九度山駅と高野下駅の駅舎リノベーションを実施し、2020年3月には学文路駅及び周辺エリアの花スポット拡充を実施しました。

この度「はじまりの聖地、極楽橋。」をコンセプトに、電車とケーブルカーの乗換駅である「極楽橋駅」が「高野山参りのはじめに必ず訪れたい場所」へと生まれ変わります。この取組みにより、心身をデトックスしたい方などの新しいターゲット層に、高野山エリアに興味を持っていただくとともに、参詣道の沿道に新たな見どころを生み出し、これまでに高野山麓各駅で実施してきた取組みとの相乗効果によって、参詣道歩きのさらなる魅力向上も図ります。

具体的には、極楽橋駅舎内の電車側コンコースを「俗世＝黒」、ケーブルカー側コンコースを「聖域＝赤」として演出し、「極楽鳥」や高野山に縁のある動植物などをモチーフとして使用することで、駅舎内やケーブルカー車内の天井などにフォトジェニックな空間を創出します。さらに、手水舎や願掛羽といった滞在体験を行う場を新たに設けることで、新たな一步を踏み出したいと願う人が訪れる場所となることを目指します。

オープンは2020年4月21日(火)です。詳細は、別紙のとおりです。



極楽橋駅電車側コンコース  
「俗世＝黒」装飾イメージ



極楽橋駅ケーブルカー側コンコース  
「聖域＝赤」装飾、願掛羽など体験場所の設置イメージ

## 別紙 極楽橋駅の目的地化の取組みについて

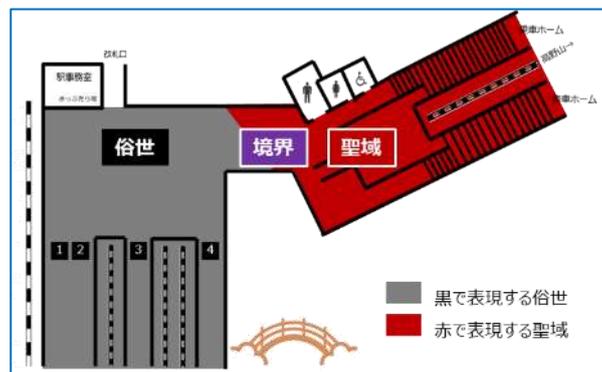
### 1. 概要

#### (1) コンセプト「はじまりの聖地、極楽橋。」

極楽橋駅のすぐ近くには、駅名の由来となった「極楽橋」があります。朱塗りのこの橋は、高野の聖域と俗世を区切る境界ともいわれており、極楽橋駅は聖域のはじまりの場所と言えます。

この極楽橋の特徴と高野山に参拝される方々の「心を浄化したい」「心身の疲れをリセットしたい」「新しく何かをはじめたい」といった心情を掛け合わせた「はじまりの聖地、極楽橋。」をコンセプトに掲げ、極楽橋駅舎内の電車側コンコースを「俗世＝黒」、ケーブルカー側コンコースを「聖域＝赤」として演出し、フォトジェニックな空間を創出するなど、「高野山参りのはじめに必ず訪れたい場所」となるよう、各種施策を展開します。

各種施策を通じて、高野山参りは極楽橋に立ち寄り、心を浄めることから始まることを訴求し、何かを始めたい人や新たな一歩を踏み出す人などが訪れる場所となることを目指します。



#### (2) シンボル「極楽鳥」とデザイン

「極楽鳥」をデザインの象徴として、「はじまりの聖地」をシンボリックに表現するとともに、随所に登場させることで、統一感を持たせています。

各デザインには、高野山に縁のものや縁起物を用いつつも、レトロモダン・色鮮やかなテイストにすることで、ここにしかない独自性や現代性を演出しています。

### 2. オープン日 2020年4月21日(火)

### 3. 各種施策について

#### (1) 【電車側コンコース】はじまりの天井絵巻

「いのちのはじまり」をテーマに、複数のアーティストが極楽に住まう動物・虫・植物などをイメージした50種類のイラストを作成し、フォトジェニックな天井絵巻を作ります。

極楽鳥をはじめ、高野山にゆかりのあるモチーフ（黒犬・白犬、睡蓮、しゃくなげなど）や一般的に縁起物とされるモチーフ（梅、鶴など）を散りばめることで、足を止めて一つ一つのイラストをゆっくり眺める楽しみを創出します。



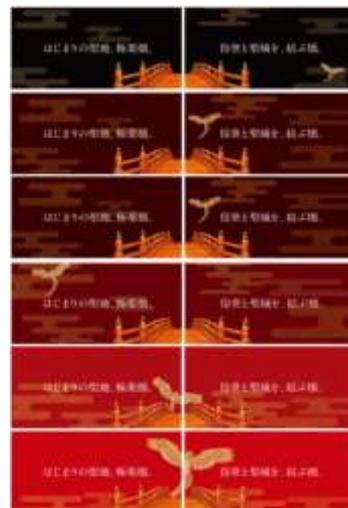
「はじまりの天井絵巻」デザインイメージ（一例）

#### (2) 【電車側コンコース】極楽橋駅限定グッズの販売

天井絵巻などのデザインを活用し、参詣道歩きの思い出になるものや女性に日常使いしていただけるものなど、様々な限定グッズを極楽橋駅窓口にて販売します。

- <販売商品(一例)>
- ・文具（クリアファイル、マスキングテープ）
  - ・テーブルウェア（箸置き、コースター）
  - ・日常雑貨（ハンドタオル、トートバッグなど）

- ・アクセサリ、コスメ（ヘアゴム、手鏡）
- ・登山客向けグッズ（手ぬぐい、缶バッジ）
- ・御朱印帳



### (3) 【両コンコースの境界部】はじまりのみち

「俗世＝黒」の世界から「聖域＝赤」の世界へ渡っていることを、6枚のフラッグのグラデーションで表現しています。

キャッチコピー「はじまりの聖地、極楽橋。俗世と聖域を、結ぶ橋。」と極楽橋のビジュアルを直接的に描くことで、実際の極楽橋に気づいていただくだけでなく、一歩進むごとに聖域への気持ちを高めていただきます。

### (4) 【ケーブルカー側コンコース】宝来天井絵

高野山で、しめ縄の代わりに用いられる縁起物の切り絵「宝来」をモチーフにし、紅白で統一された空間を作ることで、訪れる人々に、聖域に足を踏み入れたことを実感していただきます。

デザインは、極楽鳥を中心に、干支や縁起物などを使用します。

「はじまりのみち」デザインイメージ



### (5) 【ケーブルカー側コンコース】はじまりの手水舎

宝来天井絵による「赤＝聖域」の空間に設置された手水舎で、高野山への参拝前に手と共に心も浄めます。赤と黒、スチールやタイルを使用したモダンなデザインにすることで、寺や神社にある手水舎との違いを演出しています。

水槽の底には、極楽鳥を描いたガラスアートを使用し、下からライトアップして浮かび上がらせることで、フォトスポットとしても楽しんでいただけます。

「宝来天井絵」デザインイメージ(一例)

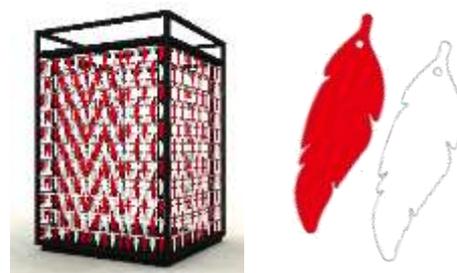


「はじまりの手水舎」イメージ

### (6) 【ケーブルカー側コンコース】極楽鳥の願掛羽

絵馬のように、極楽鳥の羽をイメージした紅白のペーパーフェザーに、はじまりの聖地で誓う決意や願いを綴って、専用のスタンドに飾っていただきます。

願掛羽は1枚100円で販売し、回収した願掛羽は、1年に1回、高野山でお焚き上げします。



「極楽鳥の願掛羽」イメージ

### (7) 【ケーブルカー車内】ケーブルカー天井装飾

2両×2編成(4両)あるケーブルカー車内の天井を、それぞれ違うデザインで装飾します。ぜひどちらのデザインのケーブルカーもお楽しみください。

1号車デザイン：宝来天井絵

2号車デザイン：極楽鳥



「ケーブルカー天井装飾」イメージ

## 【ご参考①】高野山と高野山麓エリアにおける取組み方針

高野山と高野山麓エリア(橋本～極楽橋駅)が「国内外の旅行者に選ばれる関西有数の観光地」となることを目指し、各種施策を推進しています。

### 1. コンセプト・ねらい

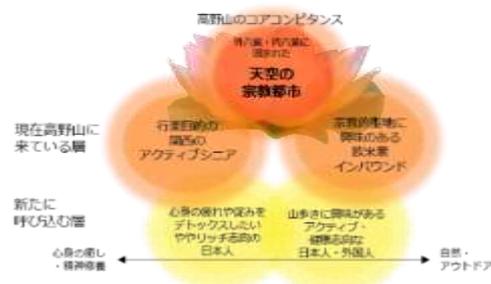
高野山の核となる良さ・強みは堅持しつつ、新たな楽しみ方を訴求してターゲットを拡大し、来訪者増・滞在日数の増につなげる。

### 2. 施策方針

訪れる動機をつくるコンテンツ開発と、ターゲットに特化したプロモーションを組み合わせ、ターゲットの拡大とリピートの促進を実現する。

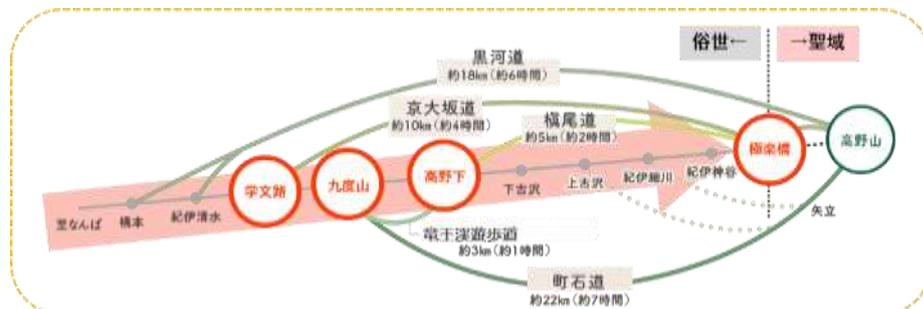
### 3. 新ターゲット

- ①山歩きに興味があるアクティブ・健康志向な日本人・外国人
- ②心身の疲れや淀みをデトックスしたい、ややリッチ志向の日本人



## 【ご参考②】近年実施した各種施策

現代の参詣道である自社線の魅力を高めつつ、以下のとおり、新ターゲットに響くコンテンツを開発・発信しています。



### 1. 九度山駅 おむすびスタンド「くど」

2019年11月2日開業。九度山駅舎をリノベーションし、ホームから見える厨房には、3台の“かまど”を設置。かまど炊きのおむすびに地元産の食材を使用するなど、九度山・和歌山らしさあふれるメニューを味わえます。展望デッキからは九度山のまちの眺望が楽しめ、飲食スペースには、鉄道の運行管理装置やレトロな沿線案内図を活用しています。



### 2. 高野下駅 駅舎ホテル「NIPPONIA HOTEL 高野山 参詣鉄道 Operated by KIRINJI」

2019年11月2日開業。大正建築の近代化産業遺産である駅舎をリノベーションし、全国的にも珍しく「関西初」となる「駅舎ホテル(2室)」を歴史ある参詣道で高野山頂を目指すトレッキング拠点として整備しています。



### 3. 学文路駅及び周辺エリア「花スポットの拡充」

地元とともに植樹を行い景観保全に取り組んできた、学文路～九度山駅間の線路沿いの桜並木(ソメイヨシノ29本)を、2020年3月23日(月)から4月5日(日)まで、夜間ライトアップしています。また、学文路駅上りホームに「学文路 花文字花壇」を3月31日(火)に設置します。

## 【ご参考③】極楽橋を通る参詣道

### 1. 京大坂道

京大坂道(約10km)は、京都・大阪・堺の三方からの高野街道が麓の学文路で合流し、集落や宿場跡をたどりながら高野山を目指す参詣道です。高野七口の中でも最も歩きやすいルートとして、多くの人々に利用されてきました。朱塗りの極楽橋を渡った先、急峻ないろは坂(旧不動坂)から女人堂までの山道は、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されています。

### 2. 槇尾道

高野下駅が高野山に最も近いターミナル駅として開業した頃、駅周辺の推出地域から高野山への参詣道として利用されていたのが槇尾道(高野町神谷まで約5km)です。当時は多くの参拝者がこの参詣道を利用しており、茶屋や宿場が数多く点在していました。

### 3. 竜王溪遊歩道

九度山駅と高野下駅の間に、善女竜王を祀っていることから竜王溪と呼ばれる溪谷があります。昔、高野の木材を運ぶためのトロッコ道として使われていた九度山のまちなかから高野下駅に通じる溪谷沿いの道を、九度山町が整備しています。

以上